

平成 23 年度 NPO 法人もったいない学会通常総会

日 時 2011 年 5 月 17 日（水）13 時 30 分から 14 時

場 所 東京大学山上会館 201・202 会議室

【総会資料】

■ 次第

1. 開会
2. 総会成立要件の確認
3. 会長挨拶
4. 議長の選出
5. 議題審議
 - (1) 第 1 号議案 平成 22 年度事業報告及び決算報告の件
 - (2) 第 2 号議案 平成 23 年度事業計画及び予算計画の件
 - (3) 第 3 号議案 理事新任の件
 - (4) 第 4 号議案 議事録署名人選任に関する件

論文賞表彰

6. 閉会

第1号議案 平成22年度事業報告及び決算報告の件

I. 平成22年度事業報告

(概況)

皆様のご支援、ご協力のもと、社会に貢献できる学会に発展させるべく、平成22年度も精力的に活動を行いました。

以下に平成22年度の活動状況の詳細をご報告いたします。

【定款で定められて学会の目的】

「この法人は、広く一般市民に“石油ピーク”を啓蒙し、石油を大切に使う方策を検討し、その知識、知恵を広く一般に広げることによって、心豊かな社会の実現に寄与することを目的とする。」

1. 学会事業活動

1) シンポジウムの開催

実施なし。

2) サロンの開催

以下の4回のサロンを実施した。

第1回サロン

【日時】2010年5月14日(金) 14:00から17:00

【会場】東大本郷キャンパス工学部4号館3階 地球システム汎用室

【講演】

- ・5年後に予想される「石油文明の深刻な危機」 石井吉徳会長
- ・食料は大丈夫か、飢餓は防げるか トニー・ボーイズ
- ・石油減退の時代に目指すべき文明のコンセプト 田村八洲夫
- ・石油開発の企業活動の現状と、人類のエネルギー利用のあり方 石油資源開発株式会社代表取締役副社長 鈴木 勝王 殿

【参加者数】33名

第2回サロン

【日時】2010年6月2日(水) 15:00から17:30

【会場】産総研秋葉原事業所大会議室(2)(11002室) 秋葉原ダイビル11階

【講演】

- ・持続的社会構築を考える 早坂房次 東京電力株式会社

【討論】

・ファシリテーター：大久保泰邦 産業技術総合研究所：電力業界の方々には石油ピークをどのように理解しているのかということを含めて話題提供をしていただき、その後討論を行った。

【参加者数】27名

第3回サロン

【日時】2010年9月7日(火) 14時～17時

【会場】産総研秋葉原事業所大会議室(1)(11001室) 秋葉原ダイビル11階

【講演】

・メキシコ湾の大水深油田開発、ホルムズ海峡に見る石油ピークの本質と怖ろしさ 石井吉徳会長

・茨城八郷・現場フォーラムで学んだ石油ピーク後の食料自給ロードマップ 田村八洲夫

・実践－石油ピーク後の食料生産、EPRと交通運輸、そしてまちづくり 加藤文子

・エコ建築家の『自給自足』の5年間の実践生活、そして課題 大塚尚幹

【参加者数】20名

第4回サロン

【日時】2010年10月27日(水) 15:00から17:00

【会場】東京機械本社ビル 6階 第6会議室

【講演】

- ・エネルギーの科学 大久保泰邦 (産業技術総合研究所)

・これからの石油開発と EPR、環境問題 村山隆平（石油資源開発株式会社）
【参加者数】20名

3) WEB 会誌発行

論文 5 件を掲載した。

4) 部会・研究会活動

部会とは、特定の目的に対して学会員の有志によって広く継続的に研究を行う集まりであり、現在のところエネルギーの科学研究会、低エネルギー社会 WG、GDH・食料問題研究会がある。

4-1) エネルギーの科学研究会

①第 1 回エネルギーの科学研究会開催

2011年3月29日（火）3時～5時40分

東京大学本郷工学部 4 号館大学院演習室（242 号室）

結果をホームページに掲載

②ホームページの立ち上げ

4-2) 低エネルギー社会 WG

①低エネルギー産業経営フォーラム開催

日時：2010年7月15日（木）14:00 - 17:00

場所：産総研秋葉原事業所大会議室（2）（11002 室）

【第 1 部】話題提供 14:00 - 15:30

・石油文明が終る、日本はどう備える

石井 吉徳 もったいない学会会長、東京大学名誉教授

・石油ピークに対する世界の対応と日本

大久保 泰邦 もったいない学会監事、産業技術総合研究

・日本の運輸部門における石油消費低減の可能性

中田 雅彦 もったいない学会理事、もったいない学会理事、株式会社テクノバ

・石油ピーク後の食料をどうするのか

Antony F.F. Boys 元和光大学教授

②第 2 回低エネルギー産業経営フォーラムフォーラム

日時：2010年9月22日（水）13:30 - 17:30

場所：東京大学山上会館 大会議室

【第 1 部】前回の発足会のレビュー

13:30 - 13:50

【第 2 部】話題提供

13:50 - 15:20

・ご存じですか、石油ピークの本当の意味と怖さを（1 時間）

石井 吉徳 もったいない学会会長、東京大学名誉教授

・エネルギーの質が大切（30 分）

松島 潤 もったいない学会理事、東京大学准教授

4-3) GDH・食料問題研究会

① 5 月 14 日：第 1 回サロンにて、研究会の成果発表

② 7 月 31 日：茨城・八郷で、現場会合（農業者との交流）

③ 9 月 7 日：第 3 回サロンにて、研究会の成果発表

④ 12 月 11 日・12 日：川内教室開催（漠原人村等、自然生活者等との交流）

⑤ 1 月 11 日：アラスカ自然生活者「茅野会員」と語る会（川内村大塚ご家族も参加）

⑥ 2 月 21 日 GDH オープン会議開催

⑦ 3 月 13 日 GDH・非電化工房共同セミナー（東日本大震災のため中止）

5) 表彰など

【論文賞】

石川 宏氏

対象論文「太陽熱利用住宅の EPR 評価」：もったいない学会 WEB 学会誌 Vol. 3, pp. 13-17

2. 学会運営に関する会議の開催

1) 理事会

- ・ 6 回開催。

(平成 22 年 5 月、7 月、9 月、11 月、平成 23 年 1 月、4 月 (震災のため 3 月分を延期)

- ・ 適宜メール審議

※理事会議事録 (メール審議含む) は学会 HP で公開しております。

2) 総会

通常総会を 1 回開催した (H22.1.22)。

3. 会員の状況

会員の現況(平成 23 年 3 月 31 日現在)

正会員 : 145 名

一般会員 : 172 名

学生会員 : 6 名

賛助会員 : 6 名

計 : 329 名

II. 平成 22 年度決算報告

下記資料を参照下さい。

- ・ 収支計算書 (案)
- ・ 貸借対照表 (案)
- ・ 財産目録 (案)
- ・ 監査報告書

年度 22 特定非営利活動に係る事業 会計収支計算書

平成22年4月1日から23年3月31日まで

特定非営利活動法人

石油ピークを啓蒙し脱浪費社会をめざすもったいない学会

(単位:円)

科 目	金 額	
(経常収支の部)		
I 経常収入の部		
1 会費収入(入会金含む)		
会費収入	1,084,000	1,084,000
2 事業収入		
(1) 教育・啓発事業収入		491,810
(2) 事業収入		
3 補助金等収入		
地方公共団体補助金収入		
民間助成金収入		
4 寄付金収入		
5 その他収入		
利息収入	20	20
任意団体からの繰入金		
その他の事業会計からの繰入		
6 経常収入合計		1,575,830
II 経常支出の部		
1 事業費		
(1) 情報提供事業費	940,490	
(2) 教育・啓発事業	680,933	1,621,423
2 管理費		
役員報酬	0	
給与手当	0	
振込手数料	11,655	
消耗品費	0	
通信運搬費	0	
印刷製本費	0	
事務委託料	226,963	
租税公課	0	
経常支出合計		238618
経常収支差額		1,860,041
		-284,211
III その他資金収入の部		
1 固定資産売却収入		
その他の資金収入合計		
IV その他資金支出の部		
1 固定資産取得支出		
その他の資金支出合計		
当期収支差額		-284,211
前期繰越収支差額		1,452,137
次期繰越収支差額		1,167,926
(正味財産増減の部)		
V 正味財産増加の部		
1 資産増加額		-284,211
当期収支差額(再掲)		-284,211
2 負債減少額		0
増加額合計		-284,211
VI 正味財産減少の部		
1 資産減少額		0
当期収支差額(再掲)(マイナスの場合)		0
2 負債増加額		0
減少額合計		0
当期正味財産増加額(又は減少額)		-284,211
前期繰越正味財産額		1,452,137
当期正味財産合計		1,167,926

(注記)備考の5を参照

平成 22 年度

会計貸借対照表

平成23年 3月31日現在

特定非営利活動法人

石油ピークを啓蒙し脱浪費社会をめざすもったいない学会

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	1,167,926	
未収入金		
.....		
流 動 資 産 合 計		1,167,926
2 固定資産		
土地		
建物		
車両運搬具		
.....		
固 定 資 産 合 計		0
資 産 合 計		1,167,926
II 負債の部		
1 流動負債		
短期借入金		
未払金		
.....		
流 動 負 債 合 計		
2 固定負債		
長期借入金		
退職給与引当金		
.....		
固 定 負 債 合 計		0
負 債 合 計		0
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産	-284,211	
当期正味財産増減額	1,452,137	1,167,926
正味財産合計		
負債及び正味財産合計		1,167,926

平成22年度

会計財産目録

平成23年 3月31日現在

特定非営利活動法人

石油ピークを啓蒙し脱浪費社会をめざすもったいない学会

科 目	金 額 (単位: 円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金			
普通預金		1,167,926	
未収入金			
未収会費			
.....			
流動資産合計		1,167,926	
2 固定資産			
土地			
建物			
車両運搬具			
.....			
固定資産合計		0	
資産合計			1,167,926
II 負債の部			
1 流動負債			
短期借入金			
預り金			
.....			
流動負債合計		0	
2 固定負債			
長期借入金			
退職給与引当金			
.....			
固定負債合計		0	
負債合計			0
正味財産			1,167,926

監査報告書

私は、定款に基づき、平成 22 年度の事業報告書、収支決算書の監査をした結果、いずれも適正かつ正確に執行されていたことを認めます。

2011 年 5 月 16 日

もったいない学会
監事 大久保 泰邦

(自書)

大久保 泰邦 印

第 2 号議案 平成 23 年度事業計画及び予算計画の件

平成 23 年度事業計画（案）

【方針】石油ピーク後ならびに 3・11 以降の大きな変化に対する方策の具現化に向けて、有効な提言、草の根的な関連組織との連携を深め、社会への浸透性を高めていきます。さらに、メディアなどに働きかける等、新しい「本質的な」流れを創っていきます。

1. 学会事業活動

1) シンポジウムの開催

平成 23 年度中にシンポジウムを 2 回程度開催する。地域での普及も重視した地方開催も予定しています。

2) サロンの開催

平成 23 年度中にサロンを 6 回程度開催する。

3) 出版事業

・WEB 会誌発行

「もったいない学会 WEB 学会誌」の編集・公開業務を行う。特集号を企画する等して論理深度を深める。

・啓蒙・教育を目的とした新規刊行物の作成・出版・販売

4) 事務局機能の効率化と学会 WEB の発信力向上

オンラインを積極的に利用した事務作業の効率化。学会 WEB、コラムサーバ等におけるコンテンツ内容・構成を工夫すること、またその際、調和性・戦略性を十分吟味することにより情報発信力の向上につとめ、信頼・支持される学会 WEB を構築する。

5) 部会、WG、研究会活動

部会とは、特定の目的に対して学会員の有志によって広く継続的に研究を行う集まりであり、現在のところ、エネルギーの科学研究会、低エネルギー社会 WG、GDH・食料問題研究会がある。なお、EPR 部会については、エネルギーの科学研究会に発展的吸収されました。

(a) エネルギーの科学研究会

エネルギーの科学研究会では、いろいろなエネルギーの EPR、成長の基盤となる最終的に残る余剰エネルギー量や、エネルギー開発に伴う環境劣化を明らかにするとともに、脱石油社会のあり方を研究する場です。

主な研究テーマは以下の通りです。

- ・在来型、非在来型石油開発の実態に関する研究
- ・原子力に関する研究
- ・水力、地熱、太陽、風力、波力、潮力、バイオ資源などの自然エネルギー開発に関する研究
- ・資源開発が環境に与える実態に関する研究
- ・EPR、余剰エネルギーに関する研究
- ・輸送用のエネルギーに関する研究
- ・脱石油社会のあり方に関する研究

【活動計画】

①シンポジウム、ワークショップの開催

シンポジウムを 2 回程度開催する。

(b) 低エネルギー社会 WG

(1) 日本の特徴を生かした生き方

(2) 現在のインフラを上手に使った生き方

(3) 自給自足できる欧州連合のようなサブリージョン（バイオリージョンより広い越境的な国際社会単位）を目指した生き方。

公開シンポジウムを2回程度開催する

目的：関連団体と連携して、研究や事業を推進するためのキックオフミーティングを開催する。

シンポジウムの位置づけ：

提案のシンポジウムでは、関連団体と情報交換を行い、低エネルギー社会を実現させるための研究や事業を実践する体制を構築する。これを契機として、今後は、関連団体と連携し人材を集め、また公的資金などの資金も積極的に獲得して研究、事業を行う。

背景：低エネルギー社会 WG では、全エネルギー量が減少する可能性がある中で、低エネルギー社会をいかに創造するかを議論してきた。今後は以下を論点として議論を深める。

活動計画

①地元で活動する組織との合同講演会、討論会

主に地方における合同講演会、討論会を開催し、地域社会に合ったプランBを検討し、その実践に向けたプレーヤーを育成する。

②「高齢社会のデザイン」プロジェクト提案作成

JSTの「高齢社会のデザイン」プロジェクトへの提案を作成し、応募する。

(c) GDH・食料問題研究会

・研究課題：国内農地による食料自給率予測、およびプランBによる飢餓のない地域社会の作り方

・目的：国内農地による米カロリーの自給率を推定し、石油ピーク後のプランBによる飢餓のない、幸せな地域社会づくりの方法を研究し、社会への発信力に資する。

・GDH オープン研究会、学会内外の他の研究会/組織との共同活動を強める。

・サロンでの発表を積極的に行う。ミニシンポジウムを数回開催する。

6) 表彰など

顕著な事業を行っている活動者・団体を顕彰する。

2. 学会運営に関する会議の開催

1) 理事会

平成23年度中に6回開催する。

2) 総会

通常総会を1回開催し、必要に応じて臨時総会を開催する。

平成 23 年度事業予算計画（案）

平成 22 年度 予算（案）		（単位：円）	
収入の部		支出の部	
項目	予算	項目	予算
会費収入	1,000,000	事業費	1,700,000
正・一般・学生会員	750,000	シンポジウム開催	700,000
賛助会員	220,000	WEB サーバレンタル費	150,000
正会員入会金	30,000	WEB 会誌編集費	20,000
		総会・理事会開催費	30,000
事業収入	1,000,000	新規刊行物作成費	500,000
シンポジウム開催	500,000	研究会活動・サロン開催費	300,000
書籍販売	500,000	管理費	300,000
		事務作業委託費	200,000
		振込手数料	15,000
		消耗品費	10,000
		通信運搬費	50,000
		租税公課	5,000
		印刷・製本費	20,000
小計	2,000,000	小計	2,000,000
昨年度からの繰越金	1,167,926	予備費	1,167,926
収入合計	3,167,926	支出合計	3,167,926

第3号議案 理事新任の件

理事2名の退任に伴いまして、次の3名の方を新たに理事に選任したいと思いますので、ご検討よろしくお願ひいたします。

加藤文子氏
早坂房次氏
山本達也氏

理事退任の報告

元理事・天野治氏ならびに元理事・中田雅彦氏は一身上の都合により、それぞれ2011年3月30日付ならびに2011年4月4日付で理事を退任しましたのでご報告します。

第 4 号議案 議事録署名人選任に関する件

定款第 4 章第 29 条（総会の議事録）により、議事録には、議長及び総会において選任された議事録署名人 2 人が、記名押印又は署名しなければならない、とあります。
議事録署名人について、議長より本日出席の正会員の 2 名を指名し、お諮りします。